

# メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第39号

[2012年2月号]

メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。  
JAM 会報メール第39号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へ JAM の最新の活動を毎月中～下旬ごろ、会報メールにて発信いたします。  
今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## <目次> [ページ]

平成24年度総会および活動報告会のお知らせ	[2]
メソトマンスリー	[3]
国内から (秋山 剛)	
・ <a href="#">私とJAM徒然</a>	[5]
編集後記	[6]
次号の予定	[7]



## 平成24年度総会および活動報告会のお知らせ

平成24年度総会および活動報告会を下記の要領により開催いたします。

### 1. 日時

平成24年5月20(日) 13時30分～17時

- ・総会 13時30分～14時30分
- ・報告会 14時30分～16時
- ・懇親会 16時～17時

- \*総会へ参加していただけるのは賛助会員の方のみです。
- \*報告会はどなたでも参加できます。

### 2. 場所

JICA 地球ひろば 3階 セミナールーム301号室  
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24  
東京メトロ日比谷線 広尾駅下車(3番出口) 徒歩1分  
地図 <http://www.jica.go.jp/hiroba/about/map.html>

### 3. 内容

- \*総会 事業・会計報告
- \*活動報告会 現地スタッフとして活動中の前川が報告します。  
詳細は来月号でお知らせします。

### 4. 定員

先着60名

### 5. 参加費

総会・報告会：無料  
懇親会費：1人500円

### 6. 申込み

参加ご希望の方は、(1)氏名 (2)住所 (3)電話番号 (4)所属 (5)懇親会参加ご希望の有無をご記入のうえ、前日までにメールでご連絡ください。

support@japanmaetao.org 担当：淵上

尚、総会または報告会のみご参加の方はその旨をご記入ください。

皆様のご参加をお待ちしております。



メソトマンスリー

## 「メータオ・クリニック」から「病院」へ

【メソト＝前川 由佳】



最近、クリニックを訪れた方に必ず聞いていること。

「この環境を病院だと思えますか？」

多くの方は、「ん～。。。」っと言葉に詰まります。

受診に訪れた多くの患者さんの後ろには、地面にゴザを敷き生活用品を広げて寝泊まりする患者さんと家族。その周囲に散乱する捨てられたご飯の残りものや食べ物の外袋、ティッシュや血のついたガーゼ、動けない患者さん用の排尿ポッド…。

院内感染対策をひとつの課題として現地に赴任し6カ月。

院内感染に対するクリニックの現状把握、スタッフの意識と行動、滅菌物の扱いなど医療的な面を中心に見てきました。

しかし、日々目にするごみだらけの環境に、そもそもここは病院と呼べる環境なのだろうかという疑問を強く持ち始めました。いまさら何を言っているのかと思われるかもしれませんが、もちろん患者さんが訪れ、治療を行っているのだから病院として存在しているわけですが、その環境は決して病院と呼べるものではない、と私は感じています。

“慢性的な緊急状態”と称されるメータオ・クリニック。

20年間の時を経てメータオ・クリニックは、今やクリニック(診療所)のイメージでは収まりきらないほど大きなクリニックとなっています。提供できる医療の可能性も広がり、訪れる患者さんの数も増え続けています。一方で、緊急状態のイメージも持ち合わせているため、ごみの散乱するクリニックに違和感を感じることはなかったのではないかと思います。この施設環境と人々の様子をひっくるめて“メータオ・クリニック”なのです。

では、果たして“メータオ・クリニック”のままでもいいのか。

答えはNOだと思います。

ここが様々な疾患の可能性を持つ人々が集まる場所である以上、その環境も病院となるべきなのです。“メータオ・クリニック”から“病院”に近づけることを目標に、クリニックの感染対策チームと環境保全チームはクリニック内の巡回や患者さんへの指導、環境衛生キャンペーンなどを行っています。



それぞれの活動の様子は、次号以降にお伝えしていきます。



↑ 病院内に寝泊まりする患者と家族たち



↑ クリニック内に散乱する生活ごみ

↓ 院内感染管理チーム：ミーティングの様子



↓ 環境保全チーム：巡回の様子



## きょうのゆめ

今月の主役は、おやすみです。  
来月、誰が出てくるかしら……。お楽しみに。

国内から

## 私と JAM 徒然

【沖縄＝秋山 剛】

勤務の関係で現在、沖縄におります秋山と申します。一昨年(2011年)の10月に東京から引越しをしました。皆様とは、ご無沙汰をしておりますが今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。自己紹介が遅れましたが、発足当初より主に学校保健の分野でお手伝いをしています。

ホープ・スクールという JAM が重点的に支援している学校があります。2009年に新設校のため、初めて状況を見に行きました。メーソット中心部から一時間ほど、車を走らせて現地へ向かいます。ジャガイモ等の野菜畑が赤土の丘陵地帯に広がっている地域です。所どころに竹林があり、おそらく意図的にでしょうが、隠れるようにこの学校がありました。場所がわかりにくく、周りを車で何度か行ったり来たりしました。

路肩に車を止め、案内役のメータオ・栗肉の学校保健チームの責任者、ドライバーと学校に向かいました。小川にかかる橋を渡り、林の中を進むと学校が現れました。当時の校舎は壁を農業資材の袋や厚紙でふさいでいるという大変簡素なものでした。学校の裏手に移民労働者の住居が立ち並んでいるのですが、日中は周囲の畑に働きにでていたため、大変静かでした。赤土の地面と竹林の緑の対比が印象的だったので記憶しています。赤ん坊を抱いた若い母親が一人出てきて私になにか話しかけたので学校保健チーム責任者に聞いたところ、私がカレン族かどうかと尋ねたとのことでした。

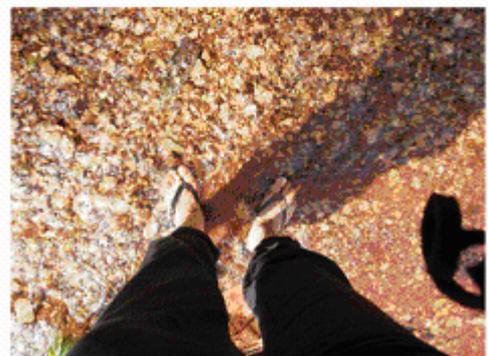
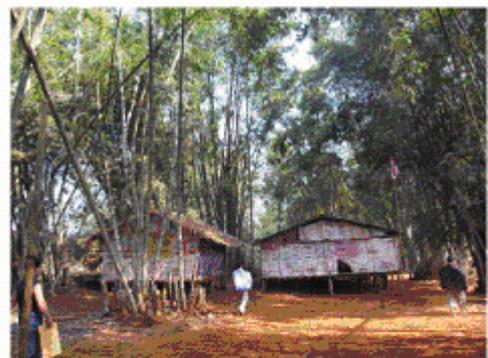
その後、教師の話聞き、学校の様子を確認してメーソットへ戻りました。この学校は、例年の学校保健評価サーベイランスでも状況が非常に悪く、新設学校で他のドナーがほとんど支援に入っていなかったこともあり、JAM の重点的な支援対象学校になりました。夏のスタディツアーでも、訪問場所に例年入っていますので参加者の皆様はご存知かと思えます。

私もホープ・スクールの支援をすすめた一人ですが、評価調査の結果で一番状況が悪かったという客観的な指標が理由です。ただ、やはり先生方が素朴で表現が適切かどうかはわかりませんが、すれていない感じがして好印象を持ったことも事実です。雨が降ると、ぬかるんでしまうのですが、学校の裏手のきれいな小川や竹林が風に吹かれている様子など、なぜかほっとさせるような不思議な魅力がある場所だと思いました。

ただ、もちろん、この学校の生徒の親たちは、学校の周囲の畑で低賃金の労働に従事し、厳しい生活やタイ人社会との関係など、いろいろな困難に直面していることと思えます。

新しい校舎ができたり、もうホープ・スクールの様子も変わったのかもしれませんが。床に穴のあいていた校舎も、現在はだいぶ立派になりました。最初の訪問時と比べてだんだん立派になっていく学校の様子を見るのが楽しみでもあります。

とりとめのない内容で申し訳ありませんが、JAM の会



員の皆様のご支援には心から感謝を申し上げます。今後とも、どうかよろしくお願い申し上げます。

なお、写真は、3年前にはじめて行ったときのものです。

## 編集後記

今月は、和歌山に帰省をしていました。私が高校卒業まで過ごしたところ。今や、年に1~2回しか帰らなくなってしまったところ。

去年の9月、そんな故郷に台風が普段より少々長めに居座りました。台風が来るのは、よくあること。あの日も、いつもの台風のつもりでいました。・・・その後の状況は、テレビでやっていたとおりです。

あの台風から、約5ヶ月。5ヶ月って長いのか短いのかよくわからないけれど、多くのがんばった人々の手があって生活に必要なものは、整っています。観光地も、観光できます。確かにちょっと那智の滝とか、那智大社は、土砂崩れが起きてしまった残りがまだあるので美観に影響は残るところもごく一部ありますが・・・。

この地域は、世界遺産で観光で成り立っている地域です。山や川、海のおりなす景色と温泉と食べ物が本当に素敵なところ。撮り鉄さんと言われる人々には、電車と風景のコラボレーションがよろしいらしくてカメラをかまえている人をよく見かけます。電車の図鑑にも、家の近所から撮った景色が載っていたくらいです。

私は、東京に来てからは白浜空港を使っていますが、今なら（3月半ばまで）、大阪方面からのJR特急がびっくりするほど安いと思います。ぜひ、足を運んでみてください。



橋杭岩（和歌山県串本町）



那智の滝（和歌山県那智勝浦町）



\*写真右の土砂は、9月の残りです。去年の8月までは、この岩たちはまったくありませんでした。

